

12月は 地球温暖化防止月間 大気汚染防止推進月間

問い合わせ 環境課 ☎38-2051

《省エネ》

●車の使用を自粛しましょう
 自動車の利用を控え、通勤や外出には、電車やバスなどの公共交通機関や、自転車の利用を心掛けましょう。

●省エネ生活をしましょう
 暖房器具の設定温度は、20度を目安にしましょう。
 電気器具のスイッチは、こまめに切りましょう。
 ＊主電源オフ運動に、ご協力ください。
 冷蔵庫は、詰め込まず、不要な開閉を減らしましょう。

●省資源・リサイクル

●ごみを少なくしたり、再資源化を図りましょう
 買い物時は、過剰包装を断り、買い物袋を持参しましょう。
 カン・ビン・ペットボトルなどを分別し、リサイクル活動に参加しましょう。

●使い捨て商品の使用を控え、物を大切に長く使しましょう。
 リサイクル商品やエコマーク商品を利用しましょう。

《省エネ》

●車の使用を自粛しましょう
 自動車の利用を控え、通勤や外出には、電車やバスなどの公共交通機関や、自転車の利用を心掛けましょう。

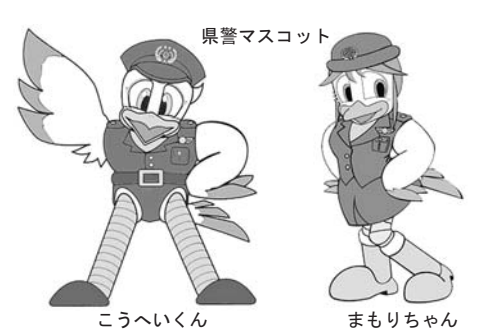
●省エネ生活をしましょう
 暖房器具の設定温度は、20度を目安にしましょう。
 電気器具のスイッチは、こまめに切りましょう。
 ＊主電源オフ運動に、ご協力ください。
 冷蔵庫は、詰め込まず、不要な開閉を減らしましょう。

●省資源・リサイクル

●ごみを少なくしたり、再資源化を図りましょう
 買い物時は、過剰包装を断り、買い物袋を持参しましょう。
 カン・ビン・ペットボトルなどを分別し、リサイクル活動に参加しましょう。

●使い捨て商品の使用を控え、物を大切に長く使しましょう。
 リサイクル商品やエコマーク商品を利用しましょう。

安全で安心な年末年始を！



「師走」に入り、街の様子も慌ただしさを見えています。この時期は、空き巣や金融機関の犯罪のほか交通事故も多くあります。犯罪被害や交通事故に遭わないよう十分に注意ください。

また、兵庫県下では依然振り

込み詐欺が発生していますので、お気を付けてください。

芦屋警察署では、この時期、年末特別警戒を実施しています。

犯罪を見たり聞いたりした時は、110番、または芦屋警察署へ通報してください。

市民一人一人が気を付けて、犯罪のない、安全で安心な年末年始を迎えましょう。

●環境教育教材「大阪湾かるた」を貸し出します！

●貸し出します！

問い合わせ 環境課 ☎38-2051

●環境教育教材「大阪湾かるた」を貸し出します！

●貸し出します！

問い合わせ 環境課 ☎38-2051

平成22年 成人式のご案内

●日時 平成22年1月11日(月・祝) 午後1時～2時30分 同級生・恩師との交流会 午後2時30分～3時30分 式典 ■会場 ルナ・ホール ■対象 平成元年4月2日～2年4月1日生まれのかた。11月1日現在、本市の住民基本台帳および外国人登録簿に記載・登録されているかたには12月中旬に案内状をお送りします。なお、案内状がなくても入場いただけます。

問い合わせ スポーツ・青少年課 ☎22-0358

1.17 芦屋市祈りと誓い



平成二十一年一月十七日で、阪神・淡路大震災から十五年を経過するにあたり、犠牲者を追悼するため「1・17芦屋市祈りと誓い」を行います。

■日時 平成二十二年 一月十七日(日) 午前七時～午後五時

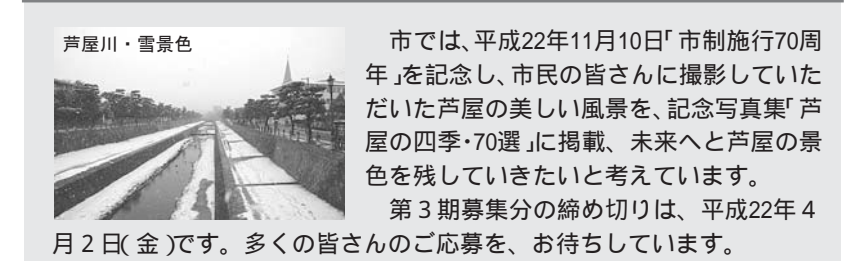
■会場 芦屋公園内(浜芦屋町)「阪神・淡路大震災慰霊と復興のモニュメント」前

■内容 自由に、記帳・献花に お越しください。

【ご注意】
 献花用の花は、市で用意します。供花や供物などは、固く辞退します。駐輪場・駐車場はありません。ご注意ください。

問い合わせ 秘書課 ☎38-2000

「芦屋の四季・70選」第3期写真募集



市では、平成22年11月10日「市制施行70周年」を記念し、市民の皆さんに撮影していただいた芦屋の美しい風景を、記念写真集「芦屋の四季・70選」に掲載、未来へと芦屋の景色を残していきたいと考えています。

第3期募集分の締め切りは、平成22年4月2日(金)です。多くの皆さんのご応募を、お待ちしております。

芦屋の美しい風景を、市制70周年記念写真集に残しましょう！

【募集要領】

■テーマ 平成22年1月～3月 冬・春 芦屋の風景セレクト

■内容 <第2期募集>今回撮影した市内の風景写真

■対象 市内在住・在勤・在学のかた

■規格 カラー・デジカメプリント2Lサイズ(1人3枚以内)

■謝礼 各期ごとに、選考作品に図書カード(3,000円)進呈

■応募方法 応募作品の裏面に、住所・氏名・年齢・電話番号・作品タイトル(撮影場所)・撮影年月日を明記の上、平成22年4月2日(金)<消印有効>までに、郵送または持参で広報課へ

■選考方法 選定委員により、各期ごとに10点～20点を選考

■その他 作品は、未発表の写真に限り、応募作品の使用権は市に帰属し、作品は返却しませんので、ご了承ください。

※第2期募集の締め切りは、平成22年1月15日(金)<必着>です。

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

芦屋の人



私が独学忠臣蔵(四六判)四〇八ページを出版したのは平成十八年の十二月十四日、赤穂七十七が吉原邸打ち入りを決行したのと同じ日です。この本は、芦屋市立図書館にもありますので、興味のある方は、ぜひ読んでください。

城主絶・城崩れ沙汰に端を発し、お家断絶・城明け渡しを経て、浪士による打ち入り・切腹に至る一連の「赤穂事件」は、三百年以上経った現在でも、年末の恒例行事のように取り上げられます。しかし、正確した情報過多のせいか、近年は正確に認識されなくなってきたようです。例えば、旧暦の閏月に気付かずにひと月数え間違ったり、また、元禄

「独学・忠臣蔵」三年後の記

山田 泰三

このたび、広報課が取材で訪ねてくるというので、あらかじめ芦屋と赤穂事件忠臣蔵との接点の有無を調べてみました。もともと芦屋は、忠臣蔵とは本質的に無縁といえる土地柄なのですが、それでも江戸と赤穂間の通り道で、芦屋の里を東西に延びていた山陽道(西国街道)に、わずかに見え隠れしていました。

赤穂城主浅野内匠頭は天和(一六八三)年八月十七歳で初のお国入りの後、刃傷事件で切腹となった三十五歳までに、八回の参勤交代で、

いわれる猿丸太夫の實現(芦屋神社)が見えてきたので、敬意を表してお参りしようと思うがサルが好きなの実がなといった内容でしようが、私の好きな歴史小説家・海音寺潮五郎氏が言った「忠臣蔵は民族の大ロマンであり、日本人の精神文化における大遺産である」との至言を、一人でも多くの人に伝えていくことが、私の使命だと思っています。

●山田 泰三やまだ たいぞう氏 昭和十六年十月十九日、下開市生まれ。戦後大阪・神戸・西宮を経て、昭和五十八年から芦屋市緑町在住。昭和三十年ごろに観た松竹映画「忠臣蔵」の花巻の巻、うしろさうじ作、まんが赤穂浪士に感動し、以来、独自の視点で調査研究するかわら、講座・講演などで伝承に努めている。昭和三十七年から平成十四年三月末まで西宮市役所勤務。平成三年にはNHKクイズ雑問即答忠臣蔵に出場(優勝)。平成十八年出版の「独学忠臣蔵」は、翌十九年に全国新聞社出版協議会ふるさと自費出版大賞で、郷土文化部門最優秀賞を受賞。

私が独学忠臣蔵(四六判)四〇八ページを出版したのは平成十八年の十二月十四日、赤穂七十七が吉原邸打ち入りを決行したのと同じ日です。この本は、芦屋市立図書館にもありますので、興味のある方は、ぜひ読んでください。

城主絶・城崩れ沙汰に端を発し、お家断絶・城明け渡しを経て、浪士による打ち入り・切腹に至る一連の「赤穂事件」は、三百年以上経った現在でも、年末の恒例行事のように取り上げられます。しかし、正確した情報過多のせいか、近年は正確に認識されなくなってきたようです。例えば、旧暦の閏月に気付かずにひと月数え間違ったり、また、元禄

「藩士と、幕末の私的慣用語を無頓着に使っているテレビ・小説、歴史書などが増えてきています。

このたび、広報課が取材で訪ねてくるというので、あらかじめ芦屋と赤穂事件忠臣蔵との接点の有無を調べてみました。もともと芦屋は、忠臣蔵とは本質的に無縁といえる土地柄なのですが、それでも江戸と赤穂間の通り道で、芦屋の里を東西に延びていた山陽道(西国街道)に、わずかに見え隠れしていました。

赤穂城主浅野内匠頭は天和(一六八三)年八月十七歳で初のお国入りの後、刃傷事件で切腹となった三十五歳までに、八回の参勤交代で、

いわれる猿丸太夫の實現(芦屋神社)が見えてきたので、敬意を表してお参りしようと思うがサルが好きなの実がなといった内容でしようが、私の好きな歴史小説家・海音寺潮五郎氏が言った「忠臣蔵は民族の大ロマンであり、日本人の精神文化における大遺産である」との至言を、一人でも多くの人に伝えていくことが、私の使命だと思っています。

●山田 泰三やまだ たいぞう氏 昭和十六年十月十九日、下開市生まれ。戦後大阪・神戸・西宮を経て、昭和五十八年から芦屋市緑町在住。昭和三十年ごろに観た松竹映画「忠臣蔵」の花巻の巻、うしろさうじ作、まんが赤穂浪士に感動し、以来、独自の視点で調査研究するかわら、講座・講演などで伝承に努めている。昭和三十七年から平成十四年三月末まで西宮市役所勤務。平成三年にはNHKクイズ雑問即答忠臣蔵に出場(優勝)。平成十八年出版の「独学忠臣蔵」は、翌十九年に全国新聞社出版協議会ふるさと自費出版大賞で、郷土文化部門最優秀賞を受賞。

いわれる猿丸太夫の實現(芦屋神社)が見えてきたので、敬意を表してお参りしようと思うがサルが好きなの実がなといった内容でしようが、私の好きな歴史小説家・海音寺潮五郎氏が言った「忠臣蔵は民族の大ロマンであり、日本人の精神文化における大遺産である」との至言を、一人でも多くの人に伝えていくことが、私の使命だと思っています。

美術博物館 1月の催し 「震災から15年」・「六甲山と芦屋の歴史-江戸時代のように-」

「震災から15年」 <第1展示室>

■期間 平成22年1月5日～2月21日 ■内容 《第1部》カメラ・アイ 阪神・淡路大震災市内の情景、記録写真展 / 《第2部》コレクション展3「震災と美術」、当館美術コレクションで見る「震災と美術」 ■入館料 中学生以上300円 同時開催企画展を含む【震災語り部による「語り継ぎたい記憶」座談会】

■日時 平成22年1月17日(日) 午後1時30分～3時 ■会場 美術1階ホール ■パネリスト 大阪芸術大学教授・大森一樹氏、前芦屋市助役・中野正勝氏、芦屋市婦人会長・広瀬志子氏、元芦屋市ボランティア委員会写真記録部長・高嶋敬展氏、本館学芸課長/コーディネーター・関西学院大学教授・角野幸博氏 ■定員 100人 ■参加費 要観覧券 ■申し込み 直接会場へ *終了後、ティーパーティー開催

「六甲山と芦屋の歴史-江戸時代のように-」 <第2展示室>

芦屋の魅力の1つに、山と海が近いということがよくあげられます。本展では、江戸時代に六甲山がどのように利用されていたかを、当館に寄贈いただいた「絵図面」、「古文書」を中心に、紹介します。お楽しみください。

■期間 平成22年1月5日～2月21日 ■入館料 中学生以上300円 同時開催企画展を含む

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432 <*12月14日～1月4日は休館します>

「昭和の面影4 - くらしと道具 -」 <歴史資料展示室>

■期間 1月5日～3月7日 2月22日～26日は展示替えのため休館 ■入館料 中学生以上300円(*2月27日～3月7日は、「第27回造形教育展」と同時開催のため無料)

本展は、小学校3年生の課外授業としても実施しています。ギャラリーでは、古今展も実施。

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432 <*12月14日～1月4日は休館します>